

## Ⅱ. セミナー等開催報告

### Ⅱ-1. 第4回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会

ビジネス創造センター（CBC）、福島大学地域創造支援センター（CERA）、滋賀大学産業共同研究センター（JRC）及び地域連携センター（CCP）の3大学の地域共同センターのセンター長及び関係者が集まり、9月29日（月）にCBC会議室において、「3大学・地域共同研究センター定期情報交換会」を開催しました。

この会議は社会科学系国立大学に設置された地域共同研究センターとしての経緯、活動領域の類似性に鑑み、3大学のセンターがそれぞれの産学官連携事業に関する創意と工夫、成果等を学び合うことにより、各大学の、より優れた社会貢献への一助とするため、定期的に情報交換会を行っており、平成17年に本学で第1回目を開催した後、各大学持ち廻りで開催され、本年は一巡して小樽商科大学で開催となりました。



会議では、（独）経済産業研究所が実施した「大学の地域貢献に関するアンケート」の各大学の回答を基に、各大学の地域共同研究センターのおかれている現状、ならびに課題等の意見交換が熱心に行われました。

なお、午後からは会場を小樽市民センター・マリンホールに移し、3大学センター主催の「公開シンポジウム」を開催しました。

### Ⅱ-2. 公開シンポジウム

#### 「地域とつながる大学／地域をつなぐ大学～3大学の取り組み～」

9月29日（月）、小樽市民センター・マリンホールにて、公開シンポジウム「地域とつながる大学／地域をつなぐ大学～3大学の取り組み～」が開催されました。ビジネス創造センターは、地域連携活動の一環として平成17年度から地域活性化セミナーを開催していますが、今般のシンポジウムは第4回地域活性化セミナーとして開催されたものです。

これまでのセミナーとの大きな違いは、全国でも数少ない社会科学系の地域共同研究センターが設置された3大学・4つのセンター（本学ビジネス創造センター、福島大学地域創造支援センター、滋賀大学産業共同研究センター、同地域連携センター）が共同で主催したことです。この3大学は、やはり平成17年から継続的に情報交換を行ってきており、これまでに社会科学系の地域共同研究センターが果たす役割や使命について議論を重ね、また産学官連携関連の全国会議などでも狭義の科学技術に偏らない社会科学系地域共同研究センターの地域貢献活動の正当な評価のあり方について協力して訴えてきました。

公開シンポジウムは、これら3つの大学のさまざまな産学官民連携・地域連携の取組事例をもとに、(特に社会科学系)大学の地域連携の今後の可能性を探ることを目的に、学外の企業、団体、一般市民などの参加者を交えて4つのテーマ「大学と地域の産業界との連携」、「大学と自治体・地方公共団体との連携」、「大学と高等学校あるいは大学間の連携」、「大学と市民の連携」—ごとに、各大学のこれまでの先進的・特徴的な取組事例を紹介し、参加者の質問やコメントに答えるという流れで進行されました。

3つの大学は、それぞれの地域性や得意分野などが異なるため、紹介された事例や話題が非常に幅広く、あっという間に2時間強の予定時間が経過してしまいましたが、本シンポジウムの開催を通じて、各大学のそれぞれの地域との“つながり”が地域を越えて共有される、新しい“つながり”に進化する糸口を見つけることが出来たように思います。

シンポジウム終了後の参加者アンケートには、「福島大学や滋賀大学の取り組みが聞けて興味深かった」という意見に加え、「もう少し時間を長くして議論を深めて欲しい」、「良い内容であったが参加者が少ないのがもったいない」という課題の指摘もありました。こうした多くのご意見を参考に、ビジネス創造センターは今後も地域との連携を強化して参りたいと考えております。

開催日時：平成20年9月29日(月)13時～16時

開催場所：小樽市民センター・マリホール

主催：国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター

国立大学法人福島大学地域創造支援センター

国立大学法人滋賀大学産業共同研究センター

国立大学法人滋賀大学地域連携センター

共催：国立大学法人小樽商科大学地域貢献推進委員会

後援：小樽市

小樽商工会議所

北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部



## Ⅱ-3. 平成 20 年度

### 小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会

3月6日（金）に札幌サテライト大講義室にて「小樽商科大学ビジネス創造センター（CBC）産学官連携研究成果報告会」を開催しました。今回の報告会は「i-vacs プロジェクト」と「地域連携におけるコーディネーター」について2本の報告を行いました。

当日の参加者は約40名でした。

報告会の内容は以下のとおりです。

13:00 受付開始

13:30 ご挨拶 小樽商科大学ビジネス創造センター長 教授 海老名 誠

13:40- 「仮想空間による地域活性化-i-vacs プロジェクトの試み-」

近藤 公彦（小樽商科大学大学院アントレプレナーシップ専攻教授  
ビジネス創造センター研究部主任）

\*i-vacs プロジェクトは、現実の街並み（狸小路商店街）を仮想空間上に構築し、そこでさまざまな情報を提供することで、街に賑わいを取り戻し、地域を活性化しようとする試みです。商大生をメンバーとする事業化へ向けての過程も報告されました。

14:20 質疑応答

14:30 （休憩）

14:40- 「地域連携におけるコーディネーターの役割と課題」

富樫 誠（小樽商科大学ビジネス創造センター地域連携推進コーディネーター）

\*発表者は小樽市との包括連携協定の締結により、昨年4月より小樽商科大学に派遣され、地域連携推進コーディネーターの任にあたっています。コーディネーターの役割とはどのようなものか、実際にどんな仕事をしているのか、「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト（通称：マジプロ）」の取り組みを例に発表しました。またこれらの活動を通じ、コーディネーターとしての課題をどう捉え、今後の活動にどう反映させるかが報告されました。

15:20 質疑応答

15:30 閉会



海老名センター長



近藤公彦教授



富樫誠コーディネーター

平成20年度 産学官連携研究成果報告会  
2009年3月6日

## 仮想空間による地域活性化 — i-vacsプロジェクトの試み —

小樽商科大学  
近藤 公彦



i-vacs Project 1

### 本日の報告内容

0. これまでの経緯
- I. i-vacs とは
- II. ビジネスとしての i-vacs
- III. i-vacs で実現する世界
- IV. i-vacs の発展性
- V. i-vacs β 版の概要
- VI. なぜi-vacsをやるのか



i-vacs Project 2

### 0 これまでの経緯

2006年10月  
札幌某IT企業より実写3次元動画技術を消費者向けのサービスとして生かせないかという提案があり、共同研究開始（当方共同研究者として小樽商科大学高宮城朝則教授）

2006年11月～2007年12月  
近藤が担当する「マーケティング行動論」の課題とし、学生からのビジネスアイデアを募る

2007年3月  
共同研究終了

2007年春  
有志による自主的活動開始（OBS学生芝香氏参加）  
学長裁量経費から資金援助

2007年11月  
復活近藤ゼミ内定者をメンバーとして本格活動開始



i-vacs Project 3

2008年4月  
学長裁量経費から資金援助  
札幌狸小路商店街振興組合にアイデア提案

2008年8月  
OBS学生花田滋雄氏、岩間久和氏参加

2008年9月  
ノーステック財団より研究開発補助金を獲得し、開発開始

2008年12月  
近藤ゼミ福士拓也、栗城慶介によるi-vacsのビジネスアイデアがキャンパスベンチャーグランプリ北海道で最優秀賞受賞  
.....

2009年3月  
キャンパスベンチャーグランプリ全国大会（東京）  
i-vacs β 版リリース

2009年上期  
大学発ベンチャーとして起業・法人化（の予定）



i-vacs Project 4

### I. i-vacs とは

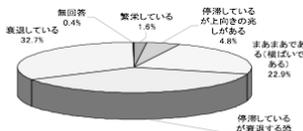
- i-vacsプロジェクトのメンバー
  - ▶ 小樽商科大学近藤ゼミ
    - 代表 福士拓也
    - 副代表 坂間十和子
    - 広報 栗城慶介 ほか近藤ゼミ生19名
    - 統括 近藤公彦
  - ▶ 小樽商科大学ビジネススクール
    - コンセプト・開発 芝 香
    - ビジネスプラン 花田滋雄
    - アドバイザー 岩間久和
  - ▶ 外部協力者
    - 札幌狸小路商店街振興組合



i-vacs Project 5

### ●プロジェクトの背景（問題意識）

- 地域商店街の衰退
  - ・ 車利用社会の進展
  - ・ 郊外型ショッピングセンターの発展
  - ・ 消費者の生活スタイル・意識の変化



中小企業庁平成18年度商店街実態調査



i-vacs Project 6

◦ ITの進展によるインターネット仮想商店やメタバース（ネット上の3次元仮想空間）を利用したネットショッピング市場の急伸

Secondlife Meet-me Splume ai sp@ce

楽R天 ICHIBA

i-vacs Project 7

i-vacsのコンセプト

◦ 地域コミュニティと連動した密着性の高い仮想空間を構築することにより、仮想空間と現実空間の対立、カニバリゼーション（共食い）を回避し、両空間が相互に価値を創造し合う「場」を提供する。仮想空間と現実空間を結びつけることで、現実の地域（街区）に人の賑わいを取り戻し、地域活性化に貢献する。

interactive（双方向的） visualized（視覚的） areal（地域の）  
community（コミュニティ） service（サービス）

i-vacs Project 8

i-vacsのポジショニング

「自由な創造性」軸と「操作快適性」軸

自由な創造性高い  
操作快適性高い  
操作快適性低い  
自由な創造性低い

Secondlife Meet-me Splume i-vacs

小樽商科大学ビジネススクール花田 滋雄氏による「i-vacs事業計画書」

- 使う機能を限定
- 簡単操作
- 見慣れた街での新たな発見体験提供
- 目的地途中の情報探検

i-vacs Project 9

i-vacsはどこが違うのか  
＝街とは何か

- 冗長性  
街には一見、不必要な情報が溢れている。
- 界索性  
街は空間を伴った地域である。
- 回遊性  
街は歩き回る「場」である。  
⇒ だから街には驚きや発見がある。  
⇔ 効率的な情報探索

i-vacs Project 10

Ⅱ. i-vacsで実現する世界

- 現実の街並みを3次元仮想空間で構築
  - 写真撮影した建物を基に3次元化ソフトで立体化し、現実の街並みを仮想空間上に再現
    - ・ 狸小路6丁目から開始し、狸小路全体を作成
    - ・ その後、他地域へとエリアを拡大
- i-vacs上でユーザーが現実空間へと訪れるサービスを追求
  - 街に足を運んでもらうきっかけづくり
  - 今まで知らなかった街の魅力の発見
  - 現実空間でできなかったことの実現

i-vacs Project 11

i-vacsの街区イメージ(狸小路6丁目)

店舗：店舗情報 店舗紹介動画 クーポン (i-vacs専用流通)

広告：マーケティングエリア 行動履歴利用広告

アバター：チャット コミュニケーション

狸小路商店街からスタート 札幌～すすきのエリア拡大

小樽商科大学ビジネススクール花田 滋雄氏による「i-vacs事業計画書」

i-vacs Project 12

### Ⅲ. ビジネスとしての i-vacs

- 企業理念
  - 人と人とのつながりを大切に交流の場の提供により、地域コミュニティの活性化に貢献する。
- ビジョン
  - 観光と買い物のゲイトウェイになる。
  - 散策体験型のサービス提供により、仮想の体験から実際の体験への動機づけとなる。
  - 産学連携大学ベンチャーとして、学生のための起業規範となる。

小樽商科大学ビジネススクール花田 滋雄氏による「i-vacs事業計画書」

### i-vacsのビジネスモデル

#### ビジネスコンセプト

集客力を高める魅力ある3D仮想空間の提供

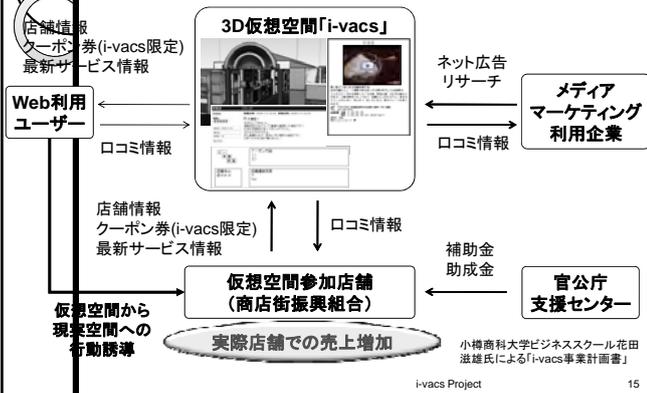
顧客タイプ	有料広告顧客	Web利用顧客
ターゲット顧客	商店街店舗、商店街振興組合 メディアマーケティング利用企業	購買可能地域居住者 観光予定客
顧客に提供する価値	現実空間への誘導(売上増) エリア特化マーケティング	高密度密着性情報の提供 散策体験型の情報提供 ユーザー属性連動広告

#### 価値を提供する方法

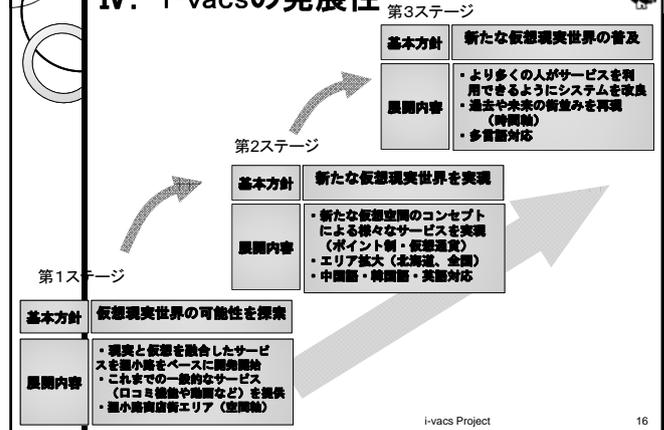
- 実在の街並みを3次元化した仮想空間をインターネット上に展開
- 鮮度の高い情報の提供
- web利用顧客情報の蓄積と活用

小樽商科大学ビジネススクール花田 滋雄氏による「i-vacs事業計画書」に基づく

### i-vacsのビジネス・フロー



### Ⅳ. i-vacsの発展性

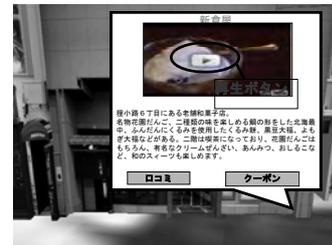


### V. i-vacs β版の概要

- 3次元仮想空間でのコンテンツ提供ではなく、2次元のWebページ上でコンテンツを提供する。
- 狸小路商店街コンテンツ
  - 動画による店内紹介
  - 口コミ掲示板
  - クーポン

### 狸小路コンテンツ① 動画

- 店舗内の映像や店員のコメントを撮影し、ユーザーが実際に来店しているような感覚で、その動画を見られるサービス。



## 狸小路コンテンツ② ロコミ掲示板

- ユーザーが実際に訪問した店舗の評価、お薦め度を書き込むことにより、店舗とユーザーの双方にとってより魅力的な商店街・店舗づくりを目指す。

投稿者	スレッド
towa	投稿日時: 2008-7-4 19:29 更新日時: 2008-7-4 19:29
管理人 ★★★★★	<input checked="" type="checkbox"/> 大満足! 先月行ってきました。 焼酎好きの私にとって豊富な種類に大満足です! お店も雰囲気があっておしゃれでした。 ぜひおすすめですよ☆ また真鯛の白子 昆布/炙り焼きは絶品です! 行きつけのお店が増えました!
登録日: 2008-4-25	
居住地:	
投稿数: 78	
オンライン	



## 狸小路コンテンツ③ クーポン

- i-vacs上で発行されたクーポンは実際の店舗で利用可能である。クーポンを発行することによって、集客力向上を図る。

### クーポン イメージ図

	クーポン内容
	1) 2)
店舗名or 店のロゴ	店舗連絡先等 〒 Tel



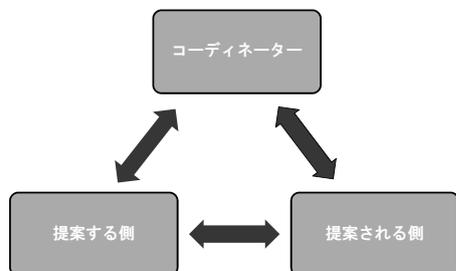
## VI. なぜi-vacsをやるのか

- 実学であること  
理論は実践に有用
- 社会に貢献すること  
大学の「知」を社会に役立てる
- イノベーションを起こすこと  
(理工系ではない) 社会科学のイノベーション
- 大学発ベンチャーとして起業すること  
「道徳は実利に通ず」(松下幸之助)  
「道徳のない経済は犯罪である。経済のない道徳は寝言である」(二宮尊徳)





## コーディネーターの役割



7

## 小樽市役所の組織（市長部局）

- × 市長部局における職員数753人（平成19年度：前年比47名減）
- × 市長 副市長 総務部 企画政策室、新幹線・高速道路推進室、市立病院新築準備室  
秘書課、総務課、職員課、情報システム課、広報広聴課、東京事務所
- 財政部 財政課、契約管財課、市民税課、資産税課、納税課
- 産業港湾部 港湾室（管理課、事業課）、観光振興室  
商業労政課、産業振興課、農政課、水産課、公設青果地方卸売市場、  
公設水産地方卸売市場
- 生活環境部 管理課、生活安全課、戸籍住民課、SC（駅前、銭函、塩谷）、  
男女平等参画課、勤労女性C、青少年課、勤労青少年H、葬祭場、  
廃棄物対策課、環境課、廃棄物事業所
- 医療保険部 国保年金課、介護保険課、後期高齢・福祉医療課、保険収納課
- 福祉部 地域福祉課、子育て支援課、保育所（6）、こども発達支援C、  
生活支援第1課、生活支援第2課、相談室
- 保健所 保険総務課、生活衛生課、健康増進課
- 建設部 まちづくり推進室（まちづくり推進課、都市計画課）  
庶務課、用地管理課、宅地課、建設事業課、雪対策課、建築住宅課、  
建築指導課
- 会計管理者 会計課

8

## 地域活性化を阻む2つの問題点

- ①まちづくり活動の担い手の減少と高齢化
- ②グループの小規模化と連携の欠如

9

## 小樽商大・小樽市と地域とのミスマッチ

- ◎小樽商大に対する地域のイメージ
- ◎小樽市に対する地域のイメージ

10

## 外部資金の獲得に向けた取り組み①

- ①平成20年度「地方の元気再生事業」（内閣府）  
小樽観光大学の機能強化を軸に、オール小樽でイベント創出や、小樽製品のブランド化などに取り組むもので、提案書（案）をCBCが作成した。
- ②平成20年度「社会人基礎力育成・評価システム構築事業」（経済産業省）  
小樽市とのPBL（Project Based Learning）を軸として、大学のキャリア教育として、正課授業で社会人基礎力を育成に取り組むもので、提案書（案）をCBCと教育開発センターが作成した。

11

## 外部資金の獲得に向けた取り組み②

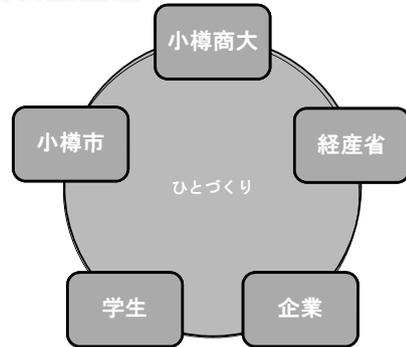
- ③平成20年度「地域再生チャレンジ交付金」（北海道）  
中国・ロシアに向けた道産品の販路拡大を軸に、中国におけるアンテナショップ事業や、ロシアでの市場調査を行うことで、小樽港における貨物の安定確保を図るもので、計画書（案）の作成についてCBCがアドバイスした。

12

### 商大生が小樽の観光について本気で考える プロジェクト（通称：マジプロ）

- ①平成20年度「社会人基礎力育成・評価システム構築事業」（経済産業省）に採択
- ②本学のキャリア教育プログラムにおける正課教育（地域連携キャリア教育）
- ③小樽市との包括連携協定に基づく連携事業

### マジプロ関連図



### “マジプロ” 関連記事①



### “マジプロ” 関連記事②



### マジプロによる地域活性化の試み

- ①わかりやすい取り組みにする
- ②それぞれが一定の効果を得る
- ③できるだけ多くの人を巻き込む
- ④多くの効果をあえて狙っていく
- ⑤小樽の人を中心に巻き込む

### コーディネーターとしての課題

- ①地域連携の必要性に関する啓蒙活動
- ②地域の企業・団体への連携拡大
- ③後志・札幌圏・道央圏への連携拡大

### **コーディネーターの心得？**

- ①人の話をよく聴くべし。
- ②どちらかに肩入れすることなかれ。
- ③信念を持って接すべし。
- ④義理に厚くあれ。
- ⑤決して忘れるなかれ。

19

**ご清聴ありがとうございました。**  
**SEE YOU NEXT TIME !**

20

## Ⅱ－４．第５回小樽商科大学地域活性化セミナー

### 経済産業省「社会人基礎力育成・評価システム構築事業」

### 「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果発表会」

3月14日（土）に小樽市民センターのマリンホールにて、第5回小樽商科大学地域活性化セミナー「商大生が小樽の観光について本気で考えるプロジェクト成果発表会」を北海道経済産業局との共催で行いました。

- と き 平成21年3月14日（土）13：00～16：45（開場12：30）
- ところ 小樽市民センター マリンホール  
小樽市色内2丁目13番5号 TEL：0134－25－9900
- 入場料 無料
- 定 員 250名
- 主 催 国立大学法人 小樽商科大学／経済産業省北海道経済産業局  
／小樽商科大学地域連携協議会
- 共 催 小樽市
- 後 援 小樽商工会議所／(社)小樽観光協会／北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部

小樽は全国有数の観光地として、国内にとどまらず近隣諸国からも、多くの観光客を受け入れるまでに急成長しました。一方で小樽観光には課題もあり、今後も魅力的であり続けるために、速やかに対策を講じる必要があります。同プロジェクトは小樽市の全面的な協力のもと、平成20年11月にスタートいたしました。小樽の観光が抱える問題点について、学生の視点で解決策を提案することにより、地域の活性化に寄与することをねらっています。これは本学のキャリア教育プログラムの一部として、経済産業省の「平成20年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」に採択され、このプログラムに参加した学生は、2月に東京で開催された「社会人基礎力育成グランプリ2009予選大会」で優秀賞、3月の決勝大会では特別奨励賞（チームワーク部門）を獲得しています。これから社会人となる学生たちが、同プロジェクトへの参加を通じて大きく成長したことで、人材育成プログラムとしても高く評価されたといえます。

（小樽観光が抱える4つの課題）

- 課題①：小樽観光の国際化対応策について
- 課題②：札幌圏マーケティングについて
- 課題③：地域ブランドの創出について
- 課題④：滞在型観光の推進について

発表会にはコメンテーターの小樽市長ほか6名のゲストが参加、学生は課題ごとに8チーム

に分かれ、約200人の市民を前にプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは2部構成で行い、第1部が課題①・②の4グループ、第2部が課題③・④の4グループが担当しました。休憩時間にはロビーでパネルセッションを行い、学生と市民が交流・意見交換をする場を設けたところ、熱気あふれる光景がいたるところで見られました。

## ■プログラム

- 12:30 開場・受付
- 13:00 開会
- 13:00 主催者あいさつ 国立大学法人小樽商科大学 学長 山本 眞樹夫  
経済産業省北海道経済産業局 局長 山本 雅史  
小樽市長 山田 勝磨
- 13:15 イン트로ダクション  
●「マジプロ」のねらいとは ●「社会人基礎力」とは ●小樽観光の4つの問題点とは
- 13:30 プレゼンテーション第1部
- ①「小樽のクリスマスを盛り上げる！」 WBS (札幌圏)
  - ②「情報発信で互いがつながる」 小樽120% (国際化)
  - ③「外国人観光客のニーズに合わせたガイドマップの作成」 三ツ星 (国際化)
  - ④「小樽でビア樽ワイン樽」 NOVELTY (札幌圏)
- 14:10 休憩 (学生によるパネルセッション)
- 14:25 プレゼンテーション第2部
- ⑤「小樽に長くいてもらうためのプラン設計」 SLAO (滞在型)
  - ⑥「和のタルトを小樽スイーツに！！」ギャップデストロイヤー (ブランド)
  - ⑦「小樽のご当地料理を作ろう！」 GJG MAX (ブランド)
  - ⑧「携帯サイトで小樽の魅力を発信する～NoプランからKnowプランへ～」 MOTS (滞在型)
- 15:05 休憩 (学生によるパネルセッション)
- 15:20 フリーディスカッションテーマ 【小樽観光の課題と今後の取り組み】  
●ディスカッション ●会場からの質問・意見 ●講評
- 16:45 閉会

その後、コメンテーターやゲストを含めた会場投票が行われ、第1部からは課題②に取り組んだ「小樽でビア樽ワイン樽」、第2部からは課題④に取り組んだ「携帯サイトで小樽の魅力を発信する～NoプランからKnowプランへ～」の2つの提案が、それぞれ最多票を獲得しました。

後半のフリーディスカッションでは、小樽観光の現状と課題について、学生からのプレゼンを踏まえて、今後の小樽観光のあるべき姿について討論しました。最多票を獲得した2チームの代表も交え、コメンテーターやゲストがそれぞれ地域で果たすべき役割と、今後の取り組みなどを自由に語り合いました。

○司会 大津 晶 国立大学法人 小樽商科大学ビジネス創造センター 副センター長

○出席者

中野 健 経済産業省北海道経済産業局産業部サービス産業室長

蜂谷 涼 小樽ふれあい観光大使

田口 智子 ㈱エフエム小樽放送局 制作・パーソナリティー

成田 祐樹 小樽市議会議員・小樽商科大学大学院生

加藤 あかね 小樽商科大学YOSAKOIソーランサークル「翔楽舞」初代代表

工藤 和寛 ㈱SEA-NA 代表取締役

石塚 隆浩 マジプロ NOVELTY 代表

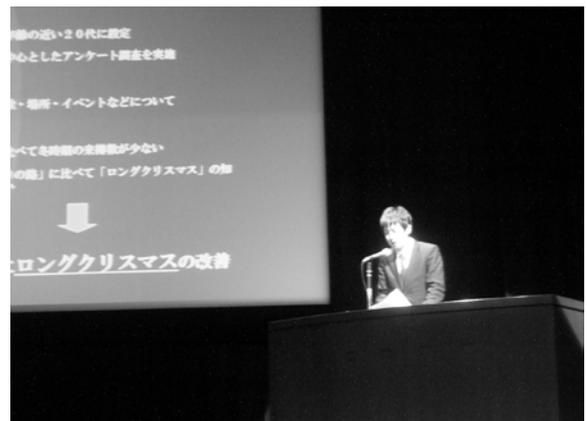
高橋 亮太 マジプロ MOTS 代表

○コメンテーター

山田 勝麿 小樽市長



山本学長挨拶



プレゼンテーション



パネルセッション



パネルディスカッション

## Ⅱ－５．ユーザーエクスペリエンス研究部門

### 「人間中心設計」ワークショップシリーズ

(ビジネス創造センターユーザーエクスペリエンス研究部門)

#### ①「人間中心設計」ワークショップを開催

7月31日に札幌サテライトキャンパスにて、ユーザビリティエンジニアリングのエキスパートである、利用品質ラボ代表 樽本 徹也氏を講師としてお迎えしたワークショップを開催しました。

ワークショップには、学内外からおよそ30名が参加し、樽本氏の講演をうかがったほか、それぞれの業務分野に分かれたグループディスカッションにより、業務分野に特徴的な「人間中心設計」(HCD: Human Centered Design)における課題の抽出と、解決方法の検討を行いました。

同じ「人間中心設計」に取り組みつつも、行政系、システム開発系、ユーザビリティデザイン系では異なる課題を抱えていることを参加者間で共有したことは、今後の研究部門の活動に役立つ、重要な成果となりました。

尚、本ワークショップは、特定非営利活動法人「人間中心設計推進機構」の共催にて実施いたしました。



(樽本氏の講演)



(平沢研究部門長によるガイダンス)

#### ②「初めてのユーザビリティテスト」を開催

10月25日(土)に、小樽駅前ユーザビリティラボにおいて、「初めてのユーザビリティテスト」と題したワークショップを開催しました。ワークショップには道内外から6名の方々がご参加くださいました。

講師の三澤直加氏((株) U'eyes Design)、尾形慎哉(本学 学術研究員)による講義と実習

のテーマは、設計途中の宿泊施設のウェブサイトのユーザビリティテスト。「人間中心設計」(HCD: Human Centered Design)による開発プロセスにおける評価の位置づけを明らかにした上で、ペーパープロトタイプ、ユーザビリティラボを利用したテストの設計から実施までを体験していただきました。

なお、本ワークショップは、【共催】JaSST' 08 Sapporo 実行委員会、特定非営利活動法人「人間中心設計推進機構」の共催をいただいて実施したものです。御礼申し上げます。



(三澤直加氏)



(尾形慎哉研究員)



(ペーパープロトタイプの評価の様子)



(ユーザビリティテストの様子)

### ③「人間中心設計から見た地域医療システムの課題」を開催

2月22日(土)に、「人間中心設計から見た地域医療システムの課題」と題したワークショップを開催しました(於:小樽商科大学札幌サテライト)。本ワークショップは、当研究部門が継続して開催しているワークショップシリーズの第4回目です。学内外から約20名の方々にご参加いただき、活発な討議が行われました。講演者と題目は次の通りです。

- 「地域医療が抱える包括的課題— 麻酔科医から見えること —」 並木 昭義氏 (札幌医科大学医学部)
- 「山梨県における遠隔医療支援システム」 郷健太郎氏 (山梨大学大学院)
- 「開業医が見る医療支援システムの人間中心設計的課題」 川端 博志氏 (医療社団未来)

**K&A クリニック)**

なお、本ワークショップは、日本人間工学会 情報社会人間工学部会、特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構の共催をいただいて開催いたしました。また、悪天候により交通の便が乱れたため、プログラムを変更して実施しました。ご協力くださった講師、会場のみなさまに御礼申し上げます。



(並木昭義氏)



(郷健太郎氏)



(川端博史氏)



(会場の様子)